銭谷会長にインタビュー

学校核にした地域創造を

銭谷眞美氏が秋田高校同窓会の新会長に就任した。同窓会の在り方や今後の運営方針、会員や在校生へのメッセージ、そして故郷秋田への思いなどを校史資料館「羽城館」で語ってもらった。聞き手は大地進・広報委員長。

町田さんが今年1月30日に逝去され、その後を受けて6月の総会で第11代会長に就任されました。新会長として、あらためて抱負をお聞かせください。

銭谷　町田前会長からは生前、秋高の先輩というだけでなく文化人、経済人として親しくご指導いただいておりました。平成27年に私が同窓会の副会長になったのも、町田さんの推薦があったからだと思います。会長のお話があったとき、私は秋田に住んでいないので十分お役に立てるか心配でした。でも、町田さんの思いを継承して同窓会のために何かできれば、という気持ちが強く、お引き受けしました。

具体的にはどんなお考えを持っていますか。

銭谷　私は千葉県松戸市に住んでいますが、今も土崎に実家があり、秋田はどうあるべきか関心を持ち続けております。私は基本的に、若い人から高齢の方までが一緒に楽しんで暮らせる街づくりができたら、と思っています。

私は高校時代、社会部に所属し、主に郷土史研究をしていました。文部省に入り平成4年、小学校課長になったときに手掛けたのが伝統文化教育、いわゆる「ふるさと教育」です。各都道府県に郷土史の教育資料を作ってもらう事業で、その第1号が秋田県でした。自然、歴史、風土、先人の事績など幅広い内容の「ふるさと秋田の学び」という本を作っていただき、小学校の授業で活用していただきました。「ふるさと秋田」を学ぶことで、子供たちが秋田に誇りを持って生きる。自分と秋田のかかわりを絶えず意識して生きる。そんなとっかかりになったと思います。母校秋田高校の生徒も、そんな思いを大切にしてほしいと思います。

少子高齢化が著しい秋田県には課題が山積しています。同窓会の果たすべき役割も、一層強まっていると思うのですが。

銭谷　おっしゃる通りです。地域再生のキーは学校にある、と私は考えています。小、中、高はもちろん、大学も含めてです。なぜなら、学校は若い人が集う所だからです。やはり若い人には活力がある。学校はある意味で「社会の窓」です。だから学校を核にした地域創造を考えるべきです。その意味で、秋田高校は秋田県の地域再生の核になり得ます。

同窓会は在校生に対して、物質的な支援だけでなく、精神面での支援もするべきだと考えています。人生で一番多感な時期に学んだ同窓の誇りや経験は、我々にとって非常に大きな財産になっています。今の高校生にもいい財産になるよう応援していきたいと思います。

昭和43卒といえば、衆院議員の金田勝年さんや新日鐵住金の進藤孝生社長ら著名な人が多いですね。高校時代の思い出で特に印象に残っているのは、どんなことですか。

銭谷　やはり当時の校長の鈴木健次郎先生の存在が大きかったですね。「汝、何の為に其処に在り哉」の教えだけでなく、いろいろな意味においてです。

鈴木先生に関して、私が文部省に入って初めて分かったことがあります。鈴木先生は昭和22、23年ごろ、文部省の社会教育課課長補佐を務めておられ、「日本の公民館制度の父」と呼ばれる存在だったのです。つまり地域における社会教育制度をつくった方でした。文部省の先輩からは「君は、あの先生の教え子なのか」と言われたものです。

秋高時代、鈴木先生は校長として「文武両道」を強調しておられました。剣道部が全国優勝し、ラグビー部は花園ベスト4。野球部も甲子園でベスト4になりました。

私は社会部で、部員は10人ぐらいでした。「巡検」といって、1週間ぐらい地域に泊まり込んで、自炊しながら調査したこともありました。また社会部誌「南暁」や生徒会誌「羽城」の編集もやっていて、当時同窓会長だった古村精一郎さんのご自宅まで伺ったことも懐かしい思い出として残っています。

東京国立博物館の館長として日々、どのようにお過ごしですか。

銭谷　仕事は館の管理経営、特に展覧会の企画実施と作品の収集、保存がメインです。大きな企画展は1年間に最低4回は開催しています。いろいろ準備が必要ですので、3～5年先まで計画しています。最近は海外展も多くなり、海外出張も増えました。

母校は5年後に創立150周年の節目を迎えます。会員、そして在校生に「これだけは伝えたい」というメッセージをお願いします。

銭谷　同窓会の会員の皆さまには、青春時代に学んだ学び舎を時には思い出して、後輩たちに思いを寄せてほしい。そして会員相互の交流をこれまで以上に深めてほしいと思います。

在校生には「自校教育」、つまり自分たちの学び舎はどういう歴史を持ち、どんな先輩たちがいるか、学んでもらいたい。いろいろな歴史に自分がつながって今、ここで学んでいるんだ、ということを知ることが重要だと思います。それが「学びを深める」ことになると確信しております。